日本画部門審査評

本年の日本画部門には昨年より 7 点多い 63 点の出品があった。はじめに全体を通覧し、審査員 3 名で挙手を行なった。2 票以上をまず入選とし、のち 1 票だった作品から再度挙手、および協議により残りの入選を決め、33 点の入選作が確定した。 賞については、はじめの 2 票以上の作品 22 点を全て並べ、審査員がそれぞれ 9 点を選び複数票を獲得したものを賞の候補とした。そこからは審査員の協議により各賞を決めていった。 最優秀賞の《古都の水路閣》は、京都の南禅寺境内にある近代の文化遺産である水路閣を画面いっぱいに大きくとらえている。風化した煉瓦の質感が絶妙で作者の高い技量がうかがえる。そこに差し込む日光が加わり、強く目を引く作品となっている。 優秀賞となった《橋梁》は、最後まで最優秀賞と争った作品である。こちらは日本画の顔料の特性をうまく引き出し、コンクリートの複雑微妙な色彩が高く評価された。もう一つの優秀賞《南米回想》は 2 匹のカピバラを描く。その毛のゴワゴワした質感をとても丁寧に描き出している。ちょっと間の抜けたような表情も面白い。三重県市長会長賞《白骨樹林》は、白骨化した樹林の奇観を淡いトーンの中で巧みに捉えている。一見煩雑な画面だがじっくり見ていくと林の奥深さに引き込まれる。三重県町村会長賞《風薫る》は、実った麦の穂をアップで描く。麦の実る爽やかな季節の空気感が伝わってくる。岡田文化財団賞《青い鳥》は、最初に見た時はやや薄くて物足りないと思ったが、じっくり見れば白い絵具で葉の一枚一枚を繊細に描き分けており、非常に気持ちの良い作品だと感じた。写真では伝わりにくいと思うので会場でよく見てほしい。素晴らしきみえ賞《鈴鹿川》は郷土ののどかな風景を素直に描いている。技巧とは逆の素朴な絵のように見えるが、時間をかけて見ていくほどに、色も形も隙がなく、実によく練られた作品であると感じた。出品作品の大半が風景や動植物だった中で for your Dream 賞《君への花束》は、ひときわ異彩を放っていた。このような画題は写生に基づくものに比べると軽く見えてしまう傾向があるが、本作品は鶏の姿の面白さと水墨をうまく活かした彩色で、見応えのある作品となった。自然の恵み賞《爽》はロープウェイを画面の真ん中に据えた構図が面白い。空の青、常緑樹の緑、紅葉の赤と黄色がという明瞭な色彩の対比が印象に残る。 受賞作を並べてみると色彩や描法はバラエティ豊かで、非常にレベルが高い作品が揃ったといって良いと思う。その一方で、画題の偏りはやや気になった。今回は人物画が受賞作にはなく、入選作の中にも少なかった。日本画の豊かさをさらに伝えられるをような作品にも挑戦してほしい。また、近年水墨画をベースにした作品の出品が増えており、優れた作品も多い。しかし、モノトーンの概念的な風景に過ぎないものが多いように思う。水墨ならではの必然性を突き詰めた作品を期待したい。

日本画部門審査主任

田島達也